

阿部 次郎

(あべ じろう)

明治 16 年 (1883) ~ 昭和 34 年 (1959)

哲学者、美学者。東京帝国大学文科大学哲学科を卒業後、夏目漱石の門へ出入りする。著書「三太郎の日記」は大正昭和期に青春のバイブルとして広く読まれた。大正 6 年(1917)、雑誌「思潮」の主幹となる。慶応義塾大、日本女子大の講師を歴任。大正 11 年(1922)、文部省在外研究員として渡欧し、帰国後、東北帝国大学に新設された法文学部美学講座の初代教授に就任。以来 23 年間美学講座を担当し、昭和 16 年(1941)から定年まで法文学部長を務める。

定年後も帝国学士院会員として活動するほか、昭和 29 年(1954)には財団法人阿部日本文化研究所を設立、理事長兼所長を務めるなど勢いが衰えることはなかった。仙台市名誉市民。